



Sun Java System Portal Server Mobile Access 7.1 管理ガイド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-0871
2007 年 3 月

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

はじめに	7
1 概要	17
Portal Server 7.1 での Mobile Access 機能の有効化	18
▼ Portal Server 7.1 で Mobile Access を設定する	18
▼ ログイン成功時の URL を変更する	19
Mobile Access ソフトウェア	19
ポータルデスクトップ	19
クライアントタイプ	20
認証	21
音声アクセス	21
チャンネル、コンテナ、プロバイダ	21
レンダリング	22
モバイルアプリケーション	24
管理コンソール	24
Mobile Access ソフトウェアの機能	24
標準の管理機能	25
ログイン	25
2 モバイル機器の管理	27
クライアントディテクションの理解	27
▼ 一致を決定する	28
クライアントデータベースの管理	29
クライアントデータベースの更新	29
▼ クライアントデータベースを更新する	29
「クライアントマネージャー」の使用	30
マークアップ言語	30

スタイル	31
デバイス情報	31
フィルタオプション	31
クライアントエディタ	32
▼ 「クライアントマネージャー」を起動する	32
▼ スタイルプロパティーを表示する	32
クライアントタイプデータの管理	34
▼ クライアントタイプを編集する	34
▼ スタイルを継承した新しいデバイスを作成するには	36
▼ プロパティーを継承した新しいデバイスを作成する	38
▼ カスタムデバイスを削除する	40
▼ ポータルユーザーが選択したクライアントタイプを Portal Server コンソールから 識別するには	41
 3 モバイル認証の設定	45
NoPassword 認証	45
▼ Access Manager コンソールから NoPassword モジュールを有効にするには	45
匿名認証	46
MSISDN 認証	47
 4 モバイルポータルデスクトップの管理	49
ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャの理解	49
▼ Portal Server 7.1 管理コンソールで親コンテナを編集する	50
ワイヤレスデスクトップディスプレイパッチャのプロパティー	50
条件プロパティー	51
チャンネルの状態プロパティー	52
JSPRenderingContainer のプロパティー	53
 5 モバイルアプリケーションの設定	55
サービス設定属性の使用	55
Access Manager 属性の使用	56
▼ Portal Server コンソールからアイデンティティ管理ユーザー属性を編集する	56
モバイルアプリケーションテンプレートについて	57
FAX の設定	58

6 音声アクセスの設定	61
音声機能の概要	61
音声アクセスの設定	62
音声サービスプロバイダの使用	62
▼ 音声サービスプロバイダアクセスを有効にする	62
テレフォニーシステムの使用	63
▼ テレフォニーシステムアクセスを使用する	63
SIP (Session Initiation Protocol) の使用	63
▼ SIP アクセス用にシステムを設定する	64
ネイティブオーディオの使用	64
▼ ネイティブオーディオアクセスを使用する	64
Nuance Voice Web Server のインストール	65
▼ サーバーをインストールする	65
音声アクセス可能なユーザーアカウントの作成	66
Portal Server ソフトウェアへのアクセス	66
音声サービスプロバイダの使用	67
電話の使用	67
SIP (Session Initiation Protocol) の使用	68
ネイティブオーディオの使用	68
索引	69

はじめに

このガイドでは、Sun Java™ System Portal Server Mobile Access 7.1 (以前の名称は Sun™ ONE Portal Server, Mobile Access) ソフトウェアの管理機能の使用方法について説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 7 ページの「対象読者」
- 8 ページの「お読みになる前に」
- 9 ページの「内容の紹介」
- 10 ページの「表記上の規則」
- 12 ページの「関連マニュアル」
- 14 ページの「オンラインでの Sun リソースへのアクセス」
- 14 ページの「Sun テクニカルサポートへのお問い合わせ」
- 14 ページの「Sun 以外の関連 Web サイトについて」
- 15 ページの「コメントをお寄せください」

対象読者

このマニュアルは、サイトで Mobile Access ソフトウェアの管理を担当する Portal Server 管理者またはシステム管理者を対象としています。

対象読者を特定します。このテキストを使用して、マニュアルで扱っている機能のうち対象読者にとって特に役立つものを紹介します。ほかのマニュアルで、異なる対象読者向けに類似の情報を扱っている場合は、該当するマニュアルに読者を誘導します。たとえば、このマニュアルが入門レベルのユーザーを対象としている場合は、より詳細な情報を得るために開発者が参照すると役立つマニュアルを提示します。対象読者の説明には、次の情報を含めることができます。

- 特定のプログラミング言語などの必要知識
- Solaris オペレーティング環境またはハードウェアプラットフォームについての、必要な経験または理解度
- ユーザーまたは職務のタイプの定義 (アプリケーションプログラマ、システム管理者、フィールドエンジニアなど)
- ユーザーが実行するタスクに関する用語

例:

この『Sun Java System Portal Server Mobile Access 7.1 管理ガイド』は、Sun Java System サーバーおよびソフトウェアを使用して、統合アイデンティティ管理および Web アクセスプラットフォームを実装する管理者またはソフトウェア開発者による利用を想定しています。

Portal Server Mobile Access の管理者およびソフトウェア開発者は、次のテクノロジーについて理解しているようにしてください。

- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)
- Java テクノロジー
- JavaServer PagesTM (JSPTM) テクノロジー
- HTTP (Hypertext Transfer Protocol)
- HTML (Hypertext Markup Language)
- XML (Extensible Markup Language)

お読みになる前に

Mobile Access を管理する前に、次の事柄について理解しておくことをお勧めします。

- SolarisTM の基本的な管理手順
- UNIX[®] の基本的な管理手順
- LDAP (lightweight directory access protocol)
- モバイル環境およびボイス環境に対応するポータルコンテンツの作成に使用されるマークアップ言語 (HTML、cHTML、VoiceXML など)
- SolarisTM 8 オペレーティングシステム (SPARC[®] プラットフォーム版)、Solaris 9 オペレーティングシステム (SPARC プラットフォーム版)、または Solaris オペレーティングシステム (x86 プラットフォーム版)
- Sun JavaTM System Directory Server (以前の名称は Sun ONE Directory Server)
- Sun JavaTM System Access Manager (以前の名称は Sun ONE Identity Server および Sun Java System Identity Server)
- Sun JavaTM System Portal Server 7
- Sun JavaTM System Portal Server Secure Remote Access 7

使用する Web コンテナによっては、次の製品のいくつかの知識が必要になります。

- Sun JavaTM System Web Server (以前の名称は Sun ONE Web Server)
- Sun JavaTM System Application Server
- BEA WebLogic ServerTM 8.1 SP2/SP4
- IBM WebSphere[®] 5.1

このマニュアルを読む前に読者がほかのマニュアルの内容を理解している必要がある場合、ここで該当するマニュアルの一覧を示します。

例:

Portal Server Mobile Access は Sun Java Enterprise System のコンポーネントの 1 つです。Sun Java Enterprise System は、ネットワークまたはインターネット環境上に分散するエンタープライズアプリケーションをサポートするソフトウェアインフラストラクチャーです。読者は Sun Java Enterprise System とともに提供されるマニュアルの内容を理解する必要があります。このマニュアルは http://docs.sun.com/coll/entsys_04q4 からオンラインで入手できます。

Portal Server Mobile Access の配備では Sun Java System Directory Server がデータストアとして使用されるため、この製品とともに提供されるマニュアルの内容を理解する必要があります。Directory Server のマニュアルは、<http://www.docs.sun.com> からオンラインで入手できます。

内容の紹介

このマニュアルは、次の章および付録で構成されています。

- **第 1 章**では、Mobile Access ソフトウェアの主な機能、Mobile Access 機能、基本エンドユーザーインタフェースである Portal Server デスクトップについて説明します。
- **第 2 章**では、モバイルデバイスの識別と管理、クライアントデータベースの管理、Sun Java System Access Manager クライアントディテクションインタフェースを使用してクライアントタイプデータを管理する方法についての情報を提供します。
- **第 3 章**では、モバイルアクセスを提供するポータルサイトで役立つ認証モジュールについて説明します。
- **第 4 章**では、ワイヤレスデスクトップディスパッチャの概要と、モバイルポータルデスクトップのプロパティについて説明します。
- **第 5 章**では、アプリケーションの設定を管理する方法の概要を示します。
- **第 6 章**では、ポータルサイトへの音声アクセスに関する Mobile Access ソフトウェアのサポートについて説明します。

上記のほかに、用語集と索引も提供されています。

表記上の規則

次の表中の記号の意味が、対象の製品またはプラットフォームに対して正確であることを確認してください。詳細は、『Sun Editorial Style Guide』の第2章の「Documenting Multiple Keystrokes」を参照してください。

例

表 P-1 デフォルトのパスおよびファイル名

用語	説明
<i>IdentityServer-base</i>	Identity Server のベースインストールディレクトリを表します。 Identity Server 2004Q2 のデフォルトのベースインストールディレクトリおよびベース製品ディレクトリは、プラットフォームによって異なります。 Solaris システム: /opt/SUNWam Linux システム: /opt/sun/identity
<i>DirectoryServer-base</i>	Sun Java System Directory Server のベースインストールディレクトリを表します。固有のパス名については、製品マニュアルを参照してください。
<i>ApplicationServer-base</i>	Sun Java System Application Server のベースインストールディレクトリを表します。固有のパス名については、製品マニュアルを参照してください。
<i>WebServer-base</i>	Sun Java System Web Server のベースインストールディレクトリを表します。固有のパス名については、製品マニュアルを参照してください。

このマニュアルでは、記載されている情報の種類を表すために、表記上の規則を使用しています。

モノスペースフォント

モノスペースフォントはコンピュータ画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを表します。また、ファイル名、識別名、関数、コーディング例にも使用します。

ボールドモノスペースフォント

ボールドモノスペースフォントはコード例の中でユーザーが入力するテキストを表します。たとえば、次のようなコード例があるとします。

./pssetup

```
*****
```

```
Sun Java™ System Portal Server
```

```
*****
```

```
Installation log at
```

```
/var/sadm/install/logs/ipsinstall.13343/install.log
```

```
This product will run without a license. However, you must either purchase a
Binary Code License from, or accept the terms of a Binary Software Evaluation
license with, Sun Microsystems, to legally use this product.
```

```
Do you accept? yes/[no]
```

この例では、**./pssetup**がコマンド行から入力する部分になります。残りの部分は、その結果表示された出力になります。

イタリックフォント

イタリックフォントはインストール状況に応じた固有の情報(変数など)を使用して入力するテキストに使用されます。サーバーのパス、名前、アカウントIDなどに使用されます。

角括弧

角括弧 [] はオプションパラメータを囲みます。たとえば、Portal Server ソフトウェアのマニュアルには、dpadmin コマンドの使用法が次のように記されています。

```
dpadmin list|modify|add|remove [command-specific options]
```

[command-specific] は、dpadmin コマンドにオプションパラメータを追加できることを示しています。

コマンド行プロンプト

コマンド行プロンプト (C シェルの %, Korn または Bourne シェルの \$ など) の例は示しません。使用しているオペレーティングシステム環境に応じて、コマンド行プロンプトの表示は異なります。ただし、特に指定されていないかぎり、コマンドはマニュアルで表示されているとおりに入力する必要があります。

関連マニュアル

このマニュアルの内容に関係がある Sun の製品マニュアルのタイトル一覧を示します。また、このマニュアルに記載されている他社のマニュアルまたは読者に役立つマニュアルのタイトル (著者および出版社) の一覧も示します。

<http://docs.sun.com>SM Web サイトから、Sun の技術マニュアルをオンラインで利用できます。アーカイブを参照することも、特定の書名や件名で検索することもできます。

マニュアルセットの内容

次の表は、Portal Server Mobile Access コアマニュアルセットに含まれるマニュアルについての要約です。

マニュアルタイトル	説明
『Sun Java System Portal Server Mobile Access 配備計画ガイド』	Sun Java System Mobile Access ソフトウェアを計画および配備する方法について説明します。
『Sun Java System Portal Server Mobile Access 管理ガイド』	管理コンソールとコマンド行を使用して Sun Java System Portal Server Mobile Access 7 を管理する方法について説明します。
『Sun Java System Portal Server リリースノート』	製品のリリース後に提供されます。この現行リリースでの新機能の説明、既知の問題や制限事項、ソフトウェアまたはマニュアルの問題を報告する方法など、一連の最新情報が記載されています。
『Sun Java System Portal Server Mobile Access Developer's Guide.』	Mobile Access ソフトウェアの開発者パースペクティブについて説明します。また、ソフトウェアに付属する 3 つのモバイルアプリケーションについての情報も提供します。カレンダー、アドレス帳、およびメールの 3 つの付属アプリケーションはすべて、開発者による詳細なカスタマイズが可能です。
『Sun Java System Portal Server Mobile Access Developer's Reference Guide.』	ソフトウェアに付属する 3 つのモバイルアプリケーションをカスタマイズする方法についての開発者向けリファレンスを提供します。付属アプリケーションはカレンダー、アドレス帳、およびメールの 3 種類です。
『Sun Java System Portal Server Mobile Access Tag Reference Library』	Sun Java System Portal Server Mobile Access タグライブラリ (ソフトウェア内) についての詳しい情報を提供します。

次の表は、Portal Server Mobile Access コアアプリケーションマニュアルセットに含まれるマニュアルについての要約です。

表 P-2 マニュアルセットの内容

マニュアルタイトル	説明
『Identity Server Technical Overview』 (http://www.docs.sun.com)	アイデンティティ管理の統合と、企業資産や Web ベースアプリケーションの保護のために、Identity Server の各種コンポーネントが連携して機能するしくみについて概略レベルで解説します。Identity Server の基本的な概念および用語について説明します。
『Identity Server 管理ガイド』 (http://www.docs.sun.com)	Portal Server Mobile Access コンソールとコマンド行を使用して、ユーザーおよびサービスデータを管理する方法について説明します。
『Identity Server Developer's Guide』 (http://www.docs.sun.com)	Identity Server をカスタマイズし、その機能を組織の現在の技術インフラストラクチャーに統合する方法について説明します。製品とその API のプログラムの側面についての詳細を示します。
『Identity Server リリースノート』 (http://www.docs.sun.com)	製品のリリース後に提供されます。この現行リリースでの新機能の説明、既知の問題や制限事項、ソフトウェアまたはマニュアルの問題を報告する方法など、一連の最新情報が記載されています。

その他の Portal Server マニュアル

その他の Portal Server マニュアルには、次のものがあります。

- 『Sun Java System Portal Server 7.1 配備計画ガイド』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Developer's Guide』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 管理ガイド』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Secure Remote Access 管理ガイド』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Technical Reference Guide』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Installation Guide』
- 『Sun Java System Portal Server 7.1 Command Line Reference』

Sun Java System Portal Server 7.1 のすべてのマニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://www.docs.sun.com>

- Directory Server マニュアル <http://www.docs.sun.com>
- Web Server マニュアル <http://www.docs.sun.com>
- Application Server マニュアル <http://www.docs.sun.com>
- Web Proxy Server マニュアル <http://www.docs.sun.com>

オンラインでの **Sun** リソースへのアクセス

製品のダウンロード、プロフェッショナルサービス、パッチとサポート、追加の開発者向け情報については、次の各サイトを参照してください。

- ダウンロードセンター <http://http://www.sun.com>
- プロフェッショナルサービス <http://www.sun.com>
- Sun エンタープライズサービス、Solaris パッチ、サポート
<http://sunsolve.sun.com/>
- 開発者向け情報 <http://developers.sun.com>
- ダウンロードセンター <http://www.sun.com>
- プロフェッショナルサービス <http://www.sun.com>
- Sun エンタープライズサービス、Solaris パッチ、サポート
<http://sunsolve.sun.com>
- 開発者向け情報 <http://developers.sun.com>

Sun テクニカルサポートへのお問い合わせ

この製品に関する技術的な質問があり、製品マニュアルでは回答が得られなかった場合は、<http://www.sun.com> にアクセスしてください。

Sun 以外の関連 Web サイトについて

この項では、Sun 以外の関連 URL を示します。

この時点で Sun 以外の URL がマニュアルに含まれていない場合でも、この項目を「はじめに」に残しておきます。この項はすべての「はじめに」の節に必要であり、Sun 法務部門による文言をそのまま掲載します。

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトの利用可能性について責任を負いません。Sun は、サードパーティーのサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の素材について保証せず、いかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、製品、またはサービスを利用または信用したことに伴って発生した、あるいは発生したとされるいかなる損害や損失についても、Sun は一切責任を負いません。

コメントをお寄せください

弊社ではマニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよび提案を歓迎いたします。

コメントをお送りいただく際は、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「Send Comments」をクリックしてください。オンラインフォームに、マニュアルのタイトルと Part No. をご記入ください。このマニュアルの Part No. は 820-0871 であり、このマニュアルのタイトルページまたは上部に記載されています。たとえば、このマニュアルのタイトルは『Sun Java System Portal Server Mobile Access 7.1 管理ガイド』であり、Part No. は 820-0871 です。

概要

Sun Java™ System Portal Server Mobile Access (以前の名称は Sun™ ONE Portal Server, Mobile Access) ソフトウェアは、Sun Java System Portal Server プラットフォームのサービスと機能を携帯電話や PDA (携帯情報端末) などのモバイル機器にまで拡張します。また、音声アクセスのフレームワークも提供します。Mobile Access ソフトウェアにより、ポータルサイトユーザーは、ハイパーテキストマークアップ言語 (HTML) を必要とするブラウザを使用してアクセスするときと同じコンテンツを取得できます。このソフトウェアでは、Sun Java System Portal Server Secure Remote Access ソフトウェアがサポートされ、Sun Java System Access Manager ソフトウェアの管理コンソールが使用されます。

Mobile Access 製品の機能は、Portal Server ソフトウェアとシームレスに統合されます。Portal Server ソフトウェアの管理方法を知っていれば、Mobile Access ソフトウェアの管理方法を理解することは難しくありません。

この章では、Portal Server 7.1 アプリケーションで Mobile Access 機能を有効にする方法についての情報と、Mobile Access ソフトウェアの主な機能の概要を示します。また、Sun Java System Access Manager ソフトウェアの管理コンソール、ポータルサーバーコンソール、および基本エンドユーザーインタフェースである Portal Server デスクトップに追加された Mobile Access の機能についても説明します。この章では次のトピックについて説明します。

- 18 ページの「[Portal Server 7.1 での Mobile Access 機能の有効化](#)」
- 19 ページの「[Mobile Access ソフトウェア](#)」
- 24 ページの「[管理コンソール](#)」

Portal Server 7.1 での Mobile Access 機能の有効化

Portal Server 7.1 アプリケーションをインストール済みの場合、このアプリケーションに含まれる Mobile Access 機能はデフォルトでは無効になっています。Portal Server 7.1 で Mobile Access 機能を有効にするには、Web サーバーで次の手順を実行します。

1. `/var/opt/SUNWwbsvr7/admin-server/config-store/
host-name/web-app/host-name/amserver/WEB-INF/web.xml` ファイルおよび
`/var/opt/SUNWwbsvr7/https-
host-name/web-app/host-name/amserver/WEB-INF/web.xml` ファイルを開きます。
2. `web.xml` ファイル内の `filter` エントリを探します。
3. `amlcontroller` のエントリのコメントを解除し、ファイルを保存します。
`amlcontroller` ファイルでコメントを解除する必要がある行は次のとおりです。

```
<filter>
    <filter-name>amlcontroller</filter-name>
    <filter-class>com.sun.mobile.filter.AMLController</filter-class>
</filter>

<filter-mapping>
    <filter-name>amlcontroller</filter-name>
    <url-pattern>/*</url-pattern>
</filter-mapping>
```

4. Application Server/Web Server を再起動します。

Application Server で、次の手順を実行します。

1. `/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/generated/xml/j2ee-modules/amserver/
WEB-INF/web.xml` ファイルおよび
`/var/opt/SUNWappserver/domains/domain1/applications/j2ee-modules/amserver/
WEB-INF/web.xml` ファイルを開きます。
2. `web.xml` ファイル内の `filter` エントリを探します。
3. `amlcontroller` のエントリのコメントを解除し、ファイルを保存します。
4. Application Server/Web Server を再起動します。

▼ Portal Server 7.1 で Mobile Access を設定する

- 1 Portal Server コンソールアプリケーションにログインします。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。
- 3 利用可能なポータルのリストから `portal1` ポータルをクリックします。

- 4 「DNを選択」ドロップダウンリストから DeveloperSample を選択します。
- 5 「デスクトップ属性」で利用可能な親コンテナフィールドの値を WirelessDesktopDispatcher に変更します。

▼ ログイン成功時の URL を変更する

- 1 Access Manager コンソールにログインします。
- 2 組織の DeveloperSample に移動します。
- 3 「サービス」を選択します。
- 4 コア下で利用可能な「ログイン成功時に返すデフォルトの URL」を /portal/dt に変更します。

Mobile Access ソフトウェア

この節では、Mobile Access ソフトウェアの次の機能を理解し、これらの機能により Portal Server ソフトウェアの機能を拡張する方法について説明します。

- 19 ページの「ポータルデスクトップ」
- 20 ページの「クライアントタイプ」
- 21 ページの「認証」
- 21 ページの「音声アクセス」
- 21 ページの「チャネル、コンテナ、プロバイダ」
- 22 ページの「レンダリング」
- 24 ページの「モバイルアプリケーション」

ポータルデスクトップ

ポータルサイトでは、標準ポータルデスクトップ、モバイルポータルデスクトップ、音声ポータルデスクトップの3種類のデスクトップが提供されます。これらのポータルデスクトップは、Mobile Access ソフトウェアのコンポーネントの1つであるワイヤレスデスクトップディスパッチャによって制御されます。Portal Server デスクトップサブレットによって、ワイヤレスデスクトップディスパッチャに要求が転送されます。

ワイヤレスデスクトップディスパッチャでは、表示プロファイルの設定データを使用して、ユーザー要求のルーティング先として適切なポータルデスクトップ(標準、モバイル、または音声)が決定されます。

ユーザーのポータルサイトへのアクセス方法にかかわらず、ポータルデスクトップはユーザーのポータルサイトのデフォルトインタフェースになります。ポータルサイトのユーザーがモバイル機器を使用してポータルサイトにアクセスすると、モバイルポータルデスクトップが表示されます。電話を使用してポータルサイトにアクセスした場合は、音声ポータルデスクトップが応答します。

デフォルトでは、次のチャンネルをモバイルポータルデスクトップ上でデフォルトで利用および表示できます。

- ユーザー情報
- ブックマーク
- 個人用ノート
- サンプル XML

モバイルポータルデスクトップの詳細については、[第4章](#)を参照してください。

クライアントタイプ

Mobile Access ソフトウェアは、市販されているほとんどすべてのモバイル機器をサポートしています。各モバイル機器 (クライアント) は、クライアントプロファイルを使用して識別されます。各クライアントには、モバイル機器のブラウザで使用されるデバイスマークアップ言語に基づいて、クライアントタイプと呼ばれる一意の識別子が割り当てられます。

モバイル機器で使用されるマークアップ言語には、次のようなものがあります。

- HDML (Handheld Device Markup Language)
- cHTML (compact Hypertext Markup Language)
- iHTML (i-mode Hypertext Markup Language)
- JHTML (J-Sky Hypertext Markup Language)
- XHTML (Extensible Hypertext Markup Language)
- VoiceXML (Voice Extensible Markup Language)
- WML (Wireless Markup Language)

Mobile Access ソフトウェアでは、Nokia 6310i クライアントに対する WML サポートおよび Handspring Treo 180 クライアントに対する cHTML サポートが保証されています。ただし、ユーザーは、これらのマークアップ言語のいずれかを使用するモバイル機器でポータルコンテンツにアクセスできます。

クライアントプロファイルの管理には、Access Manager の管理コンソールの一部である「クライアントマネージャー」が使用されます。モバイルクライアントタイプおよび機器の検出の詳細については、[第2章](#)を参照してください。

認証

Mobile Access ソフトウェアでは、Portal Server ソフトウェアによって提供される認証モジュールのサポートに加え、ユーザーに次のことを許可することも可能です。

- モバイルポータルデスクトップへのログイン時にパスワードプロンプトを省略する。
- 匿名ユーザーとしてログインする。

これらの認証モジュールの使用については、[第3章](#)を参照してください。

音声アクセス

Mobile Access ソフトウェアは、VoiceXMLアプリケーションのフレームワークを提供します。音声機能にアクセスするには、音声認識、テキスト読み上げ、および VoiceXML ブラウザに対応するように音声サーバーを設定する必要があります。

音声アクセスの詳細については、[第6章](#)を参照してください。

チャネル、コンテナ、プロバイダ

Mobile Access ソフトウェアでは、プロバイダ、チャネル、およびコンテナを使用して、コンテンツをモバイルポータルデスクトップに表示します。

このトピックには、次の情報が含まれます。

- [21 ページの「チャネル」](#)
- [21 ページの「コンテナチャネル」](#)
- [22 ページの「プロバイダ」](#)

チャネル

チャネルによって、コンテンツがモバイルポータルデスクトップに表示されます。チャネルは、プロバイダオブジェクト、設定、およびチャネルをサポートするために必要なデータファイル(テンプレートなど)から構成されています。

コンテナチャネル

コンテナ(コンテナチャネル)は、ほかのチャネルのコンテンツを集めることにより、コンテンツをモバイルポータルデスクトップに表示するチャネルです。Mobile Access ソフトウェアを使用すると、Portal Server ソフトウェアに含まれているコンテナチャネルに次のデフォルトコンテナチャネルが追加されます。

- JSPNativeContainer
- JSPRenderingContainer

- TemplateNativeContainer
- VoiceJSPDesktopContainer
- WirelessDesktopDispatcher

プロバイダ

プロバイダは、モバイルポータルデスクトップ上でユーザーにチャンネルコンテンツを提供するための基盤の実装です。プロバイダは、汎用リソースのインタフェースを適合させます。

プロバイダのコンテンツソースには、次のものが含まれます。

- ファイル内のコンテンツ
- アプリケーションからの出力
- サービスからの出力

プロバイダは、モバイル機器のタイプごとに適切な形式でコンテンツを配信する Java クラスファイルです。モバイルポータルデスクトップが作成されると、関連するチャンネルのコンテンツについて各プロバイダにクエリーが実行されます。

デフォルトのプロバイダには次のものが含まれます。

- JSPRenderingProvider
- RenderingWrappingProvider

次の新しいプロバイダがデフォルトコンテナに追加されます。

- JSPRenderingContainerProvider
- JSPSingleRenderingContainerProvider
- WirelessDesktopDispatcherProvider
- WirelessJSPDesktopProvider
- WirelessTemplateClientConfigProvider
- WirelessTemplateContentProvider
- WirelessTemplateDesktopProvider
- WirelessTemplateLayoutProvider

モバイルポータルデスクトップを設定するためのチャンネル、コンテナ、およびプロバイダの使用については、[第4章](#)を参照してください。

レンダリング

モバイル機器を使用すると、ポータルサイトユーザーはHTMLブラウザを使用してアクセスするときと同じコンテンツにアクセスできます。これを可能にする処理は、レンダリングと呼ばれる変換処理です。レンダリングにより、コンテンツを一度だけ作成して、さまざまなモバイル機器に適切に表示することができます。

モバイルレンダリングコンポーネントは、機器を検出し、モバイル機器に表示するために出力をフォーマットします。このコンポーネントは、次の4つのサブコンポーネントから構成されています。

- クライアントディテクション: ポータルへのアクセスに使用される各モバイル機器の機能および特徴を決定します。これを実行するために、CC/PP (Composite Capability and Preference Profiles) 仕様、UAProf、または事前設定データが使用されます。
- レンダリングフィルタ: コンテンツをレンダリングエンジンに渡し、JavaServer Pages™ (JSP™) ソフトウェアテンプレートで設定されているコンテンツタイプの値を使用して、変換された機器固有のコンテンツをクライアントに渡します。レンダリングフィルタは、すべての認証およびアプリケーション JSP ソフトウェアテンプレートに適用されるサブリットフィルタです。
- レンダリングエンジン: AML (機器独立マークアップ言語) を、クライアントに適した機器固有のマークアップ言語に変換します。
レンダリングされたコンテンツが、対象となる機器のページサイズを超えた場合、レンダリングエンジンは改ページ位置を調整し、それらのページを応答バッファに保存します。
- 応答バッファ: 制限されたデバイスバッファに収まるように、サイズの大きな出力ストリームを小さいサイズの応答に分けて保存します。応答バッファは、認証、デスクトップ、モバイルアプリケーションの各コンポーネントで使用されます。
クライアント機器が別のページを要求すると、応答バッファは次のページで応答します。

Mobile Access ソフトウェアは、ネイティブとレンダリングの両方のチャネルおよびコンテナをサポートしています。ネイティブチャネルは、JSP テクノロジーと、Nokia WML クライアントに固有のテンプレートに基づいています。HTML、VoiceXML、および WML をサポートするクライアントは、ネイティブポータルデスクトップのテンプレートを使用します。

レンダリングチャネルでも JSP テクノロジーが使用されます。レンダリングチャネルにより、ユーザーはポータルデスクトップを表示して、特定のモバイル機器に固有のレンダリングコンテンツを表示することができます。この機能は、Mobile Access ソフトウェアのレンダリング処理を通過した AML (Abstract Markup Language) テンプレートを使用することにより、可能になります。cHTML、iHTML、JHTML、XHTML、および HDML をサポートするクライアントには、レンダリングされたポータルデスクトップの AML テンプレートが必要です。

モバイルアプリケーション

Mobile Access ソフトウェアには、ユーザーがモバイルポータルデスクトップでアクセスできる4つのデフォルトアプリケーションが用意されています。デフォルトアプリケーションは、次のとおりです。

- アドレス帳
- カレンダ
- メール
- FAX

これらのアプリケーションは、モバイルポータルデスクトップがユーザーインタフェースの役目をして、バックエンドサーバーで実行されます。アプリケーションへのリンクが確立されると、Portal Server ソフトウェアの管理外で実行されます。ユーザーは、アプリケーションの使用を終了したら、モバイルポータルデスクトップに戻って他のプロバイダを使用できます。

管理コンソール

Mobile Access ソフトウェアの管理者は、Access Manager の管理コンソールを使用して、継続した日常管理タスクのほとんどを実行することができます。

この節では、ポータルサイトへのモバイルアクセスを管理する際の、管理コンソールの次の機能の使い方について詳しく説明します。

- [24 ページの「Mobile Access ソフトウェアの機能」](#)
- [25 ページの「標準の管理機能」](#)
- [25 ページの「ログイン」](#)

Access Manager 管理コンソールおよび Access Manager ソフトウェアの管理方法については、『*Sun Java System Access Manager 7 2005Q4 管理ガイド*』を参照してください。

Mobile Access ソフトウェアの機能

ポータルサイトへのモバイルアクセスの管理に必要な機能は、管理コンソールおよびポータルコンソールの機能の一部です。

管理コンソールの機能の一部には、次のものがあります。

- 各モバイル機器のクライアントタイプに対応する条件プロパティのページ
- モバイル機器のクライアントタイプに対応するマークアップ言語のカテゴリとプロパティ定義

ポータルコンソールの機能の一部には、次のものがあります。

- モバイルポータルデスクトップのデフォルトのコンテナチャネル
- モバイルポータルデスクトップのプロバイダ
- モバイルアドレス帳、メール、およびカレンダーアプリケーションの「サービス設定」ページ

標準の管理機能

管理コンソールでモバイルおよび音声ポータルデスクトップを管理する際に実行できる機能には、次の機能が含まれます。

- Access Manager ソフトウェアのクライアントディテクションインタフェースを使用してデバイスプロファイルを編集する
- デスクトップコンテナのプロパティを変更してモバイルポータルデスクトップでのチャネルの読み込み方法を制御する
- 「NoPassword」認証モジュールを編集してユーザーがパスワードの識別を省略できるようにする

ポータルコンソールの一般的な機能の一部には、次のものがあります。

- 特定のモバイル機器に対して動的にレンダリングされるチャネルを作成する
- デフォルト以外のコンテナおよびそれらに固有のチャネルリストをサポートするようにデフォルトの Mobile Access コンテナを編集する

ログイン

Access Manager 管理コンソールのデフォルト URL は、次のとおりです。

`http://server:port/amconsole`

ポータル管理コンソールのデフォルト URL は、次のとおりです。

`http://server:port/psconsole`

管理者は、`amadmin` として両方の管理コンソールにログインします。

Portal Server ソフトウェアの管理コンソールの使用については、『*Sun Java System Portal Server 7 管理ガイド*』を参照してください。

モバイル機器の管理

Sun Java System Portal Server Mobile Access 7.1 ソフトウェアでは、Sun Java System Access Manager クライアントディテクションモジュールを使用して、ポータルサイトのユーザーがポータルサイトへのアクセスに使用するさまざまなクライアント、つまりモバイル機器を識別および管理します。

この章では次のトピックについて説明します。

- 27 ページの「クライアントディテクションの理解」
- 29 ページの「クライアントデータベースの管理」
- 30 ページの「「クライアントマネージャー」の使用」
- 34 ページの「クライアントタイプデータの管理」

クライアントディテクションの理解

クライアントディテクションは、ポータルサイトへのアクセスに使用される各モバイル機器の機能および特徴を確認します。これを実行するために、CC/PP (Composite Capability and Preference Profiles) 仕様、UAProf、または事前設定データが使用されます。

Mobile Access ソフトウェアでは、各クライアントに対して次の3つのプロパティーが定義されている必要があります。それらのプロパティーは、次のとおりです。

- `clientType`—クライアントデータの固有のインデックスを提供する名前。Nokia 6310i 携帯電話の `clientType` の値は、`Nokia6310i_1.0` です。
- `parentId`—デバイスの直接の親の ID (親がないオブジェクトの場合、値は `clientType` と同じ)。Nokia 6310i 携帯電話の `parentId` の値は、`Nokia` です。
- `userAgent`—HTTP ユーザーエージェント文字列。ベースおよびスタイル情報の場合は、この値を空にすることができます。Nokia 6310i 携帯電話の `userAgent` の値は、`Nokia6310/1.0` です。

また、Mobile Access ソフトウェアでは、クライアントタイプの特定のプロパティ値の保存および取得に条件プロパティが使用されます。たとえば、desktopContainer 条件プロパティがこれに該当します。ワイヤレスデスクトップディスパッチャは、このプロパティを読み取って、要求されたクライアントタイプのデスクトップコンテナを決定します。

Mobile Access ソフトウェアは、クライアントタイプデータをファイル /var/opt/SUNWam/config/ldif/sunAMClient_data.ldif から LDAP ディレクトリにインポートし、Access Manager ソフトウェアの API を使用して clientType を識別します。一致は、次の順序で決定されます。

▼ 一致を決定する

1 完全一致

2 部分一致

3 キーワード一致

ベースプロファイルに対して、UAProf プロファイルを動的に適用することもできます。ユーザーは FEDIClientDetector を保持し、次のいずれかを行う必要があります。

- Mobile Access システムから、一般のインターネットまたは選択したハンドセットベンダーサイトへのアクセスを許可するようにファイアウォールを設定する
- 一般のインターネットまたは選択したハンドセットベンダーサイトへのアクセスにプロキシサーバーを使用するように、Mobile Access システム JVM を設定する (後述の「技術的な注意事項」を参照)
- DMZ の内部など、Mobile Access システムにアクセス可能な内部 Web サーバー上に UAProf プロファイル (RDF ファイル) を発行し、すべての UAProf 要求に対して一般のインターネットの代わりに内部 Web サーバーを使用するように Mobile Access システム上で DNS を設定する

一般のインターネットに選択的にアクセスするようにプロキシサーバーを設定する際の技術的な注意事項は次のとおりです。

JVM には、Web コンテナからの外部プロキシを使用した外部接続のために、プロキシサーバーの詳細を指定するオプションが用意されています。また、指定されたプロキシを使用しないホストを指定することもできます。一般のインターネットへのアクセスにプロキシサーバーを使用するように、Mobile Access システム JVM を設定できます。

Web コンテナで次の JVM オプションを使用します。

```
Dhttp.proxyHost=<your-proxy-server-host>
```

```
Dhttp.proxyPort=<your-proxy-server-port>
```

特定のドメインまたはホストのプロキシサーバーを回避するには、次のオプションを使用します。

```
Dhttp.nonProxyHosts="*.<domain-name>|<hostname>|localhost"
```

クライアントデータベースの管理

クライアントデータは、次の2つの場所に保存されます。

- すべてのデフォルトクライアントデータ定義が含まれた内部ライブラリまたはデータベース。内部ライブラリは、Access Manager ソフトウェアによって定義およびサポートされます。
- カスタマイズされたクライアントデータ定義が含まれた外部ライブラリ。このライブラリのデータは、内部ライブラリ内のクライアントデータよりも優先されます。

Mobile Access ソフトウェアをインストールすると、すべてのクライアントデータは内部ライブラリに保存されます。デバイスをカスタマイズすると、デバイスの優先バージョンが作成され、外部ライブラリに保存されます。これらのライブラリのデータは、サーバーの起動時にマージされます。

Mobile Access 製品には、新しいクライアントデータ定義を追加し、既存のクライアントプロパティの変更時にクライアントを更新して、3か月ごとに内部ライブラリを更新するパッチが用意されています。この処理により、内部ライブラリを定期的に更新することができます。外部ライブラリに保存されているカスタマイズされたデータは変更されません。

このパッチの名前は、PortalMAClientDeviceUpdateRev nn です。このパッチの番号は、116412- nn です。 nn の値は、パッチのシーケンス番号です。たとえば、最初のパッチの nn が 01、2 番目のパッチが 02 になります。

クライアントデータベースの更新

▼ クライアントデータベースを更新する

- 1 <http://www.sun.com> を表示します。
- 2 「Support」リンクをクリックします。
- 3 「Patches & Update」リンクをクリックして SunSolve パッチデータベースに移動します。
- 4 表示された手順に従います。

「クライアントマネージャー」の使用

Access Manager の管理コンソールでは、「クライアントマネージャー」を使用してモバイル機器のプロパティを管理することができます。

この節では、「クライアントマネージャー」によって提供される、クライアントタイプに関する次の情報について説明します。

- 30 ページの「マークアップ言語」
- 31 ページの「スタイル」
- 31 ページの「デバイス情報」
- 31 ページの「フィルタオプション」
- 32 ページの「クライアントエディタ」

この節では、クライアントタイプを作成およびカスタマイズする方法についても説明します。

- 32 ページの「クライアントエディタ」

マークアップ言語

Mobile Access ソフトウェアは、モバイルクライアントブラウザで使用される次のマークアップ言語をサポートしています。

- HDML (Handheld Device Markup Language)—Openwave ブラウザを使用するモバイル機器用の Openwave の専用言語。Openwave の Handheld Device Transport Protocol (HOTP) を使用します。
このカテゴリの機器には、RIM 950 および UP.Browser 3.0 以前を使用する機器などが含まれます。
- JHTML (J-Sky Hypertext Markup Language)—日本の J-Sky 機器に使用される Vodafone の専用言語。
このカテゴリの機器には、J-Phone 2.0、J-Phone 3.0、Mitsubishi V101D などが含まれます。
- VoiceXML (Voice Extensible Markup Language)—対話型音声応答アプリケーションの音声ダイアログを作成するための標準。
このカテゴリの機器には、すべての電話またはすべての SIP (Session Initiation Protocol) ソフトウェアベースの電話が含まれます。
- WML (Wireless Markup Language)—XML (Extensible Markup Language) に準拠し、Wireless Application Protocol (WAP) の一部である言語。
このカテゴリの機器には、Motorola i95、Nokia 6310i、および Siemens S40 などが含まれます。
- XHTML (Extensible Hypertext Markup Language)—新しい要素を追加し、新しい属性を定義することにより誰でも拡張できる HTML 4.0 を再編成した言語。

このカテゴリの機器には、Motorola T720、Nokia 3560、Sony Ericsson T68 などが含まれます。

- cHTML (compact Hypertext Markup Language)—モバイル機器に対応するためにHTML (ハイパーテキストマークアップ言語) をより単純にしたバージョン。

このカテゴリの機器には、Handspring Treo 180、Palm i705 Handheld、Toshiba e400 シリーズなどが含まれます。

- iHTML (inline Hypertext Markup Language)—NTT DoCoMo の日本語 i-mode サービスに使用されるマークアップ言語。この言語はcHTMLと似ていますが、独自の拡張機能が用意されています。

このカテゴリの機器には、NTT DoCoMo の電話などが含まれます。

スタイル

スタイルは、マークアップ言語の関連機器グループのプロパティセットです。たとえば、Nokia スタイルは、Nokia で製造されるすべての WML 機器に適用されます。

各マークアップ言語に1つ以上の「スタイル」が存在します。マークアップ言語によっては複数のスタイルを持つ場合もあります。

「スタイル」プロパティを無効にすることはできません。新しいデバイスを作成するときに既存のクライアントを新しいデバイスのテンプレートとして使用する場合、新しいクライアントは既存のクライアントの「スタイル」プロパティを継承します。

デバイス情報

デバイス情報は、更新可能なデバイス固有のクライアントタイプデータです。

デフォルトクライアントタイプのデバイス情報を変更する場合は、デフォルトクライアントタイプの新しいバージョンを別個に作成します。このカスタム情報は外部ライブラリに保存されますが、デフォルトデバイス情報は内部ライブラリに残されます。内部ライブラリのデバイスと区別するために、各カスタムデバイスのクライアントタイプ名にアスタリスクが2つ追加されます。

フィルタオプション

「フィルタ」オプションは、特定の「スタイル」に割り当てられている特定のクライアントタイプのグループを検索して表示するための検索フィールドです。

クライアントエディタ

クライアントエディタでは、クライアントタイプの作成とカスタマイズ、およびクライアントプロパティの管理が可能です。

クライアントエディタでは、プロパティは次のグループにまとめられます。

- 一般
- ハードウェアプラットフォーム
- ソフトウェアプラットフォーム
- Network Characteristics
- Browser UA
- WapCharacteristics
- PushCharacteristicsNames
- 追加プロパティ

▼ 「クライアントマネージャー」を起動する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。

- 2 「サービス設定」タブをクリックします。

- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。

「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。

- 4 「クライアントタイプ」ラベルの後ろにある「編集」リンクをクリックします。

「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。

クライアントデータベースの管理については、[29 ページの「クライアントデータベースの管理」](#)を参照してください。

▼ スタイルプロパティを表示する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。

- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「Access Manager 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。
「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルの後ろにある「編集」リンクをクリックします。
「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、プロパティーを表示するデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。
選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル(「Nokia」など)を選択します。
選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「現在のスタイルのプロパティー」リンクをクリックします。
スタイルの編集ページが表示されます。デフォルトでは、「一般」プロパティーのスタイルが表示されます。
- 8 「プロパティー」プルダウンメニューから、表示するプロパティータイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)をクリックします。

注- プロパティータイプには、「一般」、「ハードウェアプラットフォーム」、「ソフトウェアプラットフォーム」、「Network Characteristics」、「Browser UA」、「WapCharacteristics」、「PushCharacteristicsNames」、および「追加プロパティー」があります。

- 9 「クライアントマネージャー」ページに戻るには、「取消し」をクリックします。

クライアントタイプデータの管理

クライアントタイプデータを管理するには、管理コンソールで「クライアントマネージャー」を使用します。

クライアントタイププロパティを変更したり、新しいクライアントタイプを作成して新しいデバイスを含めたり、サイト用にカスタマイズされた名前やその他のプロパティを使用してクライアントタイプを設定したり、カスタムクライアントタイプを削除したりすることができます。

既存のデバイスに基づいて新しいデバイスを作成する場合 (継承と呼ばれる処理)、新しいデバイスを作成するときに既存のデバイスのスタイルを基にするか、プロパティを基にするかを決定する必要があります。新しいデバイスと既存のデバイスを調べて、より適したオプション (スタイルまたはプロパティ) を決定します。どちらを選択する場合でも、デバイス定義をカスタマイズする必要があります。

注-クライアントタイプデータベースは、内部ライブラリと外部ライブラリから構成されています。内部ライブラリのデフォルトクライアントタイプ情報を変更したり、この情報にデータを追加したりすると、更新されたデータは外部ライブラリに保存されます。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、カスタマイズされたクライアントタイプであることを示しています。

この節では、次の手順について説明します。

- [34 ページの「クライアントタイプを編集する」](#)
- [36 ページの「スタイルを継承した新しいデバイスを作成するには」](#)
- [38 ページの「プロパティを継承した新しいデバイスを作成する」](#)
- [40 ページの「カスタムデバイスを削除する」](#)
- [41 ページの「ポータルユーザーが選択したクライアントタイプを Portal Server コンソールから識別するには」](#)

▼ クライアントタイプを編集する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。

- 2 「サービス設定」タブをクリックします。

- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「Access Manager 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。
「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルの後ろにある「編集」リンクをクリックします。
「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、編集するデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。
選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル(「Nokia」など)を選択します。
選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「クライアントタイプ」リストで、スクロールダウンして、編集するクライアント(「Nokia6310i_1.0」など)を見つけます。

ヒント-クライアントはアルファベット順に表示されます。

特定のクライアントタイプまたはクライアントタイプのグループに直接移動するには、「フィルタ」オプションを使用します。「フィルタ」テキストボックスに、表示するクライアントタイプの最初の文字または最初の数文字を入力して、「フィルタ」ボタンをクリックします。(たとえば、s で始まるクライアントタイプを検索するには、s* と入力します。)

特定のページに移動するには、一番下までスクロールし、矢印または「ジャンプ」オプションを使用します。

- 8 編集するクライアントの「アクション」列にある「編集」リンクをクリックします。
クライアントタイプの編集ページが表示されます。デフォルトでは、「一般」プロパティーが表示されます。
- 9 「プロパティー」プルダウンメニューから、変更するプロパティーのタイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)を選択します。
- 10 変更するプロパティーごとに値を変更または追加します。

ヒント-変更を消去して最初からやり直すには、「リセット」をクリックします。変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

- 11 「保存」をクリックして、これらの変更を反映します。

注-「保存」をクリックしないと、変更内容は反映されません。プロパティタイプは一度に1つずつ変更し、別のプロパティタイプを変更する前にそれらの変更内容を保存する必要があります。

このデバイスのプロパティが変更され、このスタイルのクライアントタイプのリストが表示されます。

- 12 プロパティが変更されていることを確認するには、「クライアントタイプ」リストでクライアントタイプを検索します。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、このクライアントタイプがカスタマイズされていることを示しています。

注-デフォルトクライアントタイプを変更すると、「デフォルト」リンクが「アクション」列に追加されます。「デフォルト」リンクのリンク先は、内部ライブラリです。

変更内容を削除して、クライアントタイプのプロパティをデフォルト値にリセットするには、このリンクをクリックします。この操作を実行するかどうかを確認するプロンプトは表示されません。

▼ スタイルを継承した新しいデバイスを作成するには

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。

- 2 「サービス設定」タブをクリックします。

- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。

「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。

- 4 「クライアントタイプ」ラベルの後ろにある「編集」リンクをクリックします。
「クライアントマネージャー」のインターフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、設定するデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。
選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル(「Nokia」など)を選択します。
選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「新規デバイス」ボタンをクリックして、「新規デバイスを作成」ページを表示します。
- 8 スタイルを選択する必要がある場合は、割り当てるスタイルのボタン(「Nokia」など)をクリックします。
- 9 「デバイスユーザーエージェント」の値を入力します。
- 10 「次へ」をクリックします。
入力した「デバイスユーザーエージェント」の値が「クライアントタイプ名」および「HTTP ユーザーエージェント文字列」フィールドに表示されます。
- 11 必要な場合は、これらの値を変更します。
- 12 「OK」をクリックして、これらのプロパティを保存します。
新しいデバイスが定義され、スタイルの編集ページが表示されます。このページには、割り当てた親スタイルから継承されたデフォルトプロパティが表示されます。
- 13 「プロパティ」プルダウンメニューから、変更するプロパティタイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)を選択します。

注-プロパティタイプには、「一般」、「ハードウェアプラットフォーム」、「ソフトウェアプラットフォーム」、「Network Characteristics」、「Browser UA」、「WapCharacteristics」、「PushCharacteristicsNames」、および「追加プロパティ」があります。

- 14 「保存」をクリックして、これらの値に加えた変更を保存します。

ヒント-変更を消去して最初からやり直すには、「リセット」をクリックします。変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

- 15 「クライアントタイプ」リストを検索して、作成したクライアントタイプが利用できることを確認します。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、このクライアントタイプがカスタマイズされていることを示しています。
-

注-クライアントタイプを追加すると、「削除」リンクが「アクション」列に追加されます。「削除」リンクのリンク先は、外部ライブラリです。

追加したクライアントタイプを削除するには、このリンクをクリックします。この操作を実行するかどうかを確認するプロンプトは表示されません。

▼ プロパティを継承した新しいデバイスを作成する

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が選択され、「ナビゲーション」フレームで「組織」が選択されます。
- 2 「サービス設定」タブをクリックします。
- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。
「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。
- 4 「クライアントタイプ」ラベルの後ろにある「編集」リンクをクリックします。
「クライアントマネージャー」のインタフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、コピーするデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。
選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。

- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のデフォルトスタイル(「Nokia」など)を選択します。
選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「クライアントタイプ」リストで、スクロールダウンして、新しいクライアントタイプのテンプレートとして使用する特定のクライアント(「Nokia6310i_1.0」など)を見つけます。

ヒント-クライアントはアルファベット順に表示されます。

特定のクライアントタイプまたはクライアントタイプのグループに直接移動するには、「フィルタ」オプションを使用します。「フィルタ」テキストボックスに、表示するクライアントタイプの最初の文字または最初の数文字を入力して、「フィルタ」ボタンをクリックします。(たとえば、sで始まるクライアントタイプを検索するには、s*と入力します。)

特定のページに直接移動するには、一番下までスクロールし、矢印または「ジャンプ」オプションを使用します。

- 8 新しいクライアントタイプのテンプレートとして使用するクライアントタイプの「アクション」列にある「複製」リンクをクリックします。
「デバイスを複製」ページが表示されます。コピーしているデバイスの「クライアントタイプ」および「デバイスユーザーエージェント」プロパティが表示され、デバイスの名前にプレフィックス Copy_of_ が追加されます。(たとえば、Copy_of_Nokia6310i_1.0)
- 9 必要な場合は、これらのプロパティの新しい名前を入力します。
- 10 「複製」をクリックして、これらの変更を反映します。
クライアントタイプの編集ページが表示されます。デフォルトでは、「一般」プロパティが表示されます。ここで表示されるすべてのプロパティの値は、この新しいクライアントタイプのマスターとして使用したクライアントタイプから継承されます。

ヒント-変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

- 11 「プロパティ」プルダウンメニューから、変更するプロパティのタイプ(「ソフトウェアプラットフォーム」など)を選択します。
- 12 変更するプロパティごとに値を変更または追加します。

ヒント-値を消去して最初からやり直すには、「リセット」をクリックします。変更しないで、クライアントタイプの表示に戻るには、「取消し」をクリックします。

- 13 「保存」をクリックして、これらの変更を反映します。

注-「保存」をクリックしないと、変更内容は反映されません。プロパティタイプは一度に1つずつ変更し、別のプロパティタイプを変更する前にそれらの変更内容を保存する必要があります。

このデバイスのプロパティが変更され、このスタイルのクライアントタイプのリストが表示されます。

- 14 「クライアントタイプ」リストを検索して、クライアントタイプの複製が利用できることを確認します。クライアントタイプ名に追加された2つのアスタリスクは、このクライアントタイプがカスタマイズされていることを示しています。(たとえば、Copy_of_Nokia6310i_1.0 **)

注-クライアントタイプを追加すると、「削除」リンクが「アクション」列に追加されます。「削除」リンクのリンク先は、外部ライブラリです。

追加したクライアントタイプを削除するには、このリンクをクリックします。この操作を実行するかどうかを確認するプロンプトは表示されません。

▼ カスタムデバイスを削除する

ヒント-カスタムデバイスを間違えて設定したときに、設定を変更したくない場合は、次の手順を使用してデバイスを完全に削除することができます。

- 1 **Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。

デフォルトでは、上部の水平フレームの「ヘッダー」フレームで「アイデンティティ管理」が表示され、左側の垂直フレームの「ナビゲーション」フレームで「組織」が表示されます。

- 2 「サービス設定」タブをクリックします。

- 3 左側の「サービス設定」フレームで、「**Access Manager** 設定」ヘッダーの下にある「クライアントディテクション」の矢印をクリックします。

「クライアントディテクション」のグローバル設定が右側の「データ」フレームに表示されます。

- 4 「クライアントタイプ」ラベルの後ろにある「編集」リンクをクリックします。
「クライアントマネージャー」のインターフェースが表示されます。デフォルトでは、HTML デバイスの詳細が表示されます。
- 5 最上部のタブから、削除するデバイスのマークアップ言語(「WML」など)をクリックします。
選択したマークアップ言語を使用するクライアントタイプがデータベースにある場合は、それらのクライアントタイプがアルファベット順で表示されます。
- 6 「スタイル」プルダウンメニューから、目的のスタイル(「Nokia」など)を選択します。
選択したスタイルについて、データベースにすでに存在するクライアントタイプのリストが表示されます。
- 7 「クライアントタイプ」リストで、スクロールダウンして、削除するカスタムクライアント(「Copy_of_Nokia6310i_1.0」など)を見つけます。

ヒント-クライアントはアルファベット順に表示されます。

特定のクライアントタイプまたはクライアントタイプのグループに直接移動するには、「フィルタ」オプションを使用します。「フィルタ」テキストボックスに、表示するクライアントタイプの最初の文字または最初の数文字を入力して、「フィルタ」ボタンをクリックします。(たとえば、s で始まるクライアントタイプを検索するには、s* と入力します。)

特定のページに直接移動するには、一番下までスクロールし、矢印または「ジャンプ」オプションを使用します。

-
- 8 削除するカスタムクライアントの「アクション」列にある「削除」リンクをクリックします。
このスタイルのクライアントタイプの変更されたリストが表示されます。
 - 9 「クライアントタイプ」リストを検索して、削除したクライアントタイプが利用できなくなっていることを確認します。

▼ ポータルユーザーが選択したクライアントタイプを Portal Server コンソールから識別するには

- 1 **Portal Server** 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、「共通タスク」タブが選択され、「共通管理タスク」ページが表示されます。

- 2 「ポータル」タブをクリックします。
「ポータル」ページが表示されます。利用可能なポータルが「ポータル」テーブルに表示されます。
- 3 管理するポータルの名前をクリックします。
「デスクトップのタスクと属性」ページが表示されます。このページには、Portal Server のデスクトップタスクおよび属性のうち編集可能なものが一覧表示されます。
- 4 「DNを選択」オプションから、「*username*(ユーザー)DN」を選択します。
「*username*(ユーザー)DN」オプションが利用できない場合、「DNを選択」リストにこのDNを追加する必要があります。次の手順に従って、「*username*(ユーザー)DN」を追加します。
 - a. 「DNの追加」ボタンをクリックします。
「DNリストに追加」ウィンドウが表示されます。
 - b. 「検索」オプションから「ユーザー」オプションを選択します。
 - c. 「ユーザー」オプションの後ろにあるテキストボックスにユーザー名を入力します。
 - d. 「検索」をクリックします。
ユーザー名が利用可能な場合、その名前が「検索結果」テーブルに表示されます。
 - e. 追加するユーザー名の前にあるチェックボックスを選択して「追加」をクリックします。
「*username*(ユーザー)DN」が、「DNを選択」オプションに追加されます。
- 5 「作業」リストから「コンテナとチャネルを管理」をクリックします。
「コンテナとチャネルを管理:ポータル名」ページが表示されます。このページでは、利用可能な「表示タイプ」が左フレームに、選択した「表示タイプ」のプロパティーが右フレームに表示されます。
- 6 「表示タイプ」オプションから「ワイヤレスデスクトップディスパッチャ」オプションを選択します。
ワイヤレスデスクトップディスパッチャのタスクおよびプロパティーが右フレームに表示されます。
- 7 「プロパティー」テーブルで、**selectedClients** プロパティーの前にあるチェックボックスを選択します。

- 8 「テーブルの設定」ボタンをクリックします。
「プロパティ」テーブルの最上部に「テーブルの設定」ボックスが表示されます。
- 9 「クライアントタイプ」および「ロケール」フィールドに、適切なクライアントタイプおよびロケール情報を入力します。
- 10 「了解」をクリックします。
- 11 「保存」をクリックします。
クライアントタイプに追加されます。

モバイル認証の設定

Portal Server Mobile Access ソフトウェアは、Sun Java System Portal Server ソフトウェアによって提供される認証モジュールをサポートしています。この章では、モバイルアクセスを提供するポータルサイトに使用できる、次の3つの認証モジュールについて説明します。

- 45 ページの「NoPassword 認証」
- 46 ページの「匿名認証」
- 47 ページの「MSISDN 認証」

NoPassword 認証

サイトの仕様でこの認証を必要とする場合は、ユーザー ID の入力を求めることなく、ユーザーにモバイルポータルデスクトップへのログインを許可することができます。

▼ Access Manager コンソールから NoPassword モジュールを有効にするには

- 1 **Sun Java System Access Manager** 管理コンソールに管理者としてログインします。
デフォルトでは、「アクセス制御」タブが選択され、「レルム」ページが表示されます。「レルム」テーブルで、利用可能な「レルム名」を確認できます。
- 2 たとえば、**India** レルムをクリックします。
「india — プロパティ」ページが表示され、india レルムの「レルム属性」がその下に一覧表示されます。

- 3 「認証」タブをクリックします。
「india — 認証」プロパティが表示されます。「モジュールインスタンス」テーブルで、「NoPassword モジュールインスタンス」が利用可能かどうかを確認します。
- 4 「認証連鎖」テーブルで「**IdapService 認証連鎖**」をクリックします。
「IdapService — プロパティ」ページが表示されます。利用可能なインスタンスが表示されます。

注-IdapService が「デフォルト認証連鎖」または「管理者認証連鎖」として存在しない場合、NoPassword 認証は実行されません。NoPassword 認証が必要な場合、それぞれの設定済み認証チェーンに NoPassword を追加します。「デフォルト認証連鎖」については、それぞれの設定済み認証チェーンに NoPassword を追加します。デフォルトのインストールシナリオでは、両方が IdapService 用に設定されます。

- 5 **NoPassword** インスタンスを選択します。
- 6 「追加」ボタンをクリックします。
NoPassword インスタンスが「インスタンス」リストに追加されます。
- 7 「保存」ボタンをクリックします。
認証チェーンのプロパティが更新されたことが表示されます。
- 8 「ログアウト」ボタンをクリックします。
- 9 **Sun Java System Access Manager** 管理コンソールにもう一度ログインを試みます。
このサーバーで NoPassword 認証を使用するというメッセージが表示されます。

匿名認証

認証されたユーザーになるとサイトをどのように利用できるかを知ってもらうために、ユーザーにポータルサイトにアクセスさせたい場合は、モバイルポータルデスクトップへの匿名ユーザーとしてのログインを許可することができます。

この機能では、認証されたセッションでモバイルポータルデスクトップおよび音声ポータルデスクトップのスナップショットをユーザーに公開します。

注-匿名ユーザーは、ステートフルデータが含まれるチャネルのコンテンツや設定を変更、保存、または修正することはできません。匿名認証をサポートする場合は、匿名ユーザーがこれらのチャネルを利用できないことを確認してください。

匿名実装の実装方法については、『*Sun Java™ System Portal Server 7.1 管理ガイド*』を参照してください。

匿名認証用のポータルデスクトップでは、JavaServer Pages™ (JSP™) ソフトウェアとテンプレートの両方に対して、デバイス固有のコンテナのほかに WirelessDesktopDispatcher が使用されます。これらのコンテナには、認証されたユーザーの場合と同様に、匿名ユーザーに表示されるすべてのチャンネルが含まれている必要があります。

ヒント-匿名ユーザーに対してクライアント固有のモバイルポータルデスクトップまたは音声ポータルデスクトップが必要になる可能性がある新しいデバイスをサポートするには、次の手順に従います。

1. 適切なデバイス固有コンテナを作成します。
 2. 匿名ユーザーのディスプレイプロファイルで、その特定のデバイスタイプに新しいコンテナを使用するように WirelessDesktopDispatcher を変更します。
-

MSISDN 認証

MSISDN (Mobile Station ISDN) を使用した認証を行うように、組織のユーザーを設定できます。MSISDN は、特定の利用者を識別するために使用される標準の国際電話番号です。これにより、ユーザーは認証資格情報を渡さなくてもモバイルポータルデスクトップにログインできるようになります。

この機能ではログイン URL の形式が制限されます。推奨される URL 形式は次のとおりです。

```
http://<access-manager-host>:<port>/<service-deploy-URI>/UI/  
Login?module=MSISDN&org=<org__name>
```

MSISDN 認証の実装および設定方法については、『*Sun Java™ System Access Manager 7 2005Q4 管理ガイド*』を参照してください。

モバイルポータルデスクトップの管理

Portal Server Mobile Access ソフトウェアでは、Portal Server 管理コンソールを使用してモバイルポータルデスクトップを管理します。

注- この章で提供される情報を理解し、モバイルポータルデスクトップを管理するためには、Portal Server 管理コンソールについての知識が必要です。

この章では次のトピックについて説明します。

- 49 ページの「ワイヤレスデスクトップディスパッチャの理解」
- 50 ページの「ワイヤレスデスクトップディスパッチャのプロパティ」
- 51 ページの「条件プロパティ」
- 52 ページの「チャンネルの状態プロパティ」
- 53 ページの「JSPRenderingContainer のプロパティ」

ワイヤレスデスクトップディスパッチャの理解

Mobile Access ソフトウェアをインストールすると、Portal Server サイトでモバイルポータルデスクトップ、音声ポータルデスクトップ、および標準ポータルデスクトップが提供されます。ユーザーが Portal Server にログインするときに、ワイヤレスデスクトップディスパッチャ (Mobile Access ソフトウェアのコンポーネント) では、ユーザー要求の配信先として適切なポータルデスクトップが決定されます。

ワイヤレスデスクトップディスパッチャでは、「XML 形式のディスプレイプロファイル」の設定を使用して、ユーザー要求の配信先として適切なポータルデスクトップ (標準、モバイル、音声) が決定されます。ワイヤレスデスクトップディスパッチャは、次の処理を行います。

- デスクトップ要求のクライアントタイプを決定する
- ディスプレイプロファイル設定を使用してクライアントを適切なコンテナに一致させる

- 要求を適切なコンテナに配信する

モバイルポータルデスクトップのデフォルトチャンネルは、WirelessDesktopDispatcher です。特定のデバイスのほかのコンテナをサポートするには、Portal Server 7.1 管理コンソールから WirelessDesktopDispatcher コンテナを編集するための手順に従います。

▼ Portal Server 7.1 管理コンソールで親コンテナを編集する

- 1 Portal Server 7.1 管理コンソールに管理者としてログインします。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。
利用可能なポータルが表示されます。
- 3 管理するポータルの名前をクリックします。
- 4 「DN を選択」ドロップダウンリストから「組織」オプションを選択します。
「デスクトップのタスクと属性」ページが表示されます。「デスクトップ属性」では「親コンテナ」属性が利用可能です。選択した DN のディスプレイプロファイルの最上位コンテナの値が「親コンテナ」テキストボックスに表示されます。
- 5 特定のデバイスのほかのコンテナをサポートするように、「親コンテナ」テキストボックスの値を編集します。
- 6 「保存」をクリックします。

ワイヤレスデスクトップディスプレイのプロパティ

この節では、WirelessDesktopDispatcher コンテナに対して一覧表示されるプロパティについて説明します。次の手順に従って、WirelessDesktopDispatcher コンテナのプロパティページに移動します。

1. Portal Server 7.1 管理コンソールに管理者としてログインします。
「共通管理タスク」ページが表示されます。
2. 「設定」で、「チャンネルおよびコンテナを管理」ボタンをクリックします。
「データコレクション」ポップアップウィンドウが表示されます。
3. 「ポータルを選択」ドロップダウンリストから、管理するポータルを選択します。
4. 「DN を選択」ドロップダウンリストから DN を選択します。

5. 「了解」をクリックします。

WirelessDesktopDispatcher コンテナのタスクとプロパティーが右フレームに一覧表示されます。このページで、これらのプロパティーの値を変更できます。

6. 「eitContainerName」テキストボックスで、適切なデバイスに合わせて値を編集します。

ワイヤレスデスクトップディスパッチャのプロパティーには、次のものがあります。

- desktopContainer

desktopContainer プロパティーは、モバイル機器を適切なコンテナにマッピングします。このマッピングによって、要求の配信方法が識別されます。

デフォルトでは、ネイティブコンテンツを表示するデバイス (WML を使用する Nokia 製の機器など) からの HTTP 要求は、JSPNativeContainer に配信されます。レンダリングされたコンテンツを表示するデバイスからの HTTP 要求は、JSPRenderingContainer に配信されます。

- selectedClients

selectedClients プロパティーは、ポータルサイトへのアクセスに使用されるモバイル機器を追跡します。ユーザーが新しいデバイスを使用してポータルサイトにアクセスすると、そのデバイスのクライアントタイプが selectedClients プロパティーのコレクションに追加されます。

このプロパティーは、標準ポータルデスクトップの「モバイルデバイス」編集ページにデバイスのリストを表示するためにも使用されます。各ユーザーは、他のデバイスでモバイルポータルデスクトップにログインすることにより、使用しているデバイスを表示し、リストに簡単に追加することができます。

条件プロパティー

管理者は、クライアントタイプの条件プロパティーを使用して、クライアントタイプに固有のチャンネルまたはコンテナチャンネルのプロパティーを指定することができます。クライアントデータと同様に、クライアントタイプの条件プロパティーも階層型にすることができます。

条件プロパティーの構文は、`client=clientType` です。たとえば、`client=WML` は、WML クライアントタイプの条件プロパティーの名前です。

たとえば、クライアントタイプ `client=WML` の条件プロパティーには、ワイヤレスデスクトップディスパッチャの `desktopContainer` プロパティーがあります。デフォルトでは、このプロパティーの定義は、`desktopContainer=JSPRenderingContainer` です。

Nokia デバイスのデフォルト `desktopContainer` プロパティーの階層表現は、次のようになります。

```
client=WML -> desktopContainer=JSPRenderingContainer  
client=Nokia -> desktopContainer=JSPNativeContainer
```

WML クライアントスタイル内のデバイスでは、JSPRenderingContainer が使用されます。ただし、Nokia クライアントスタイルによって定義された WML クライアントのサブセットでは、別の desktopContainer 定義が使用されます。これらのクライアントでは、JSPNativeContainer が使用されます。

チャンネルの状態プロパティー

これらのプロパティーは、JSPNativeContainer と JSPRenderingContainer の両方に対してチャンネルの状態を示します。これにより、エンドユーザーはチャンネルのコンテンツをインラインで読み込まずに、チャンネルのタイトルバーのみをモバイルポータルデスクトップに表示することができます。

注- 標準ポータルデスクトップでは、チャンネルにボタンを提供してユーザーがチャンネルのコンテンツを最小化または最大化できるようにすることができます。ただしこれは、モバイルポータルデスクトップでは現在サポートされていません。

これらのプロパティーには次のものが含まれます。

- defaultChannelIsMinimizable および defaultChannelIsMaximizable

これらのプロパティーは、「表示するチャンネル」をデスクトップチェックボックス付きで標準ポータルデスクトップのユーザーの「モバイルデバイス」編集ページに表示するかどうかを指定します。これらのプロパティーのデフォルト値は、true です。したがって、チェックボックスは表示されます。どちらかのプロパティーが false の場合、チェックボックスは表示されません。

注- 「表示するチャンネル」をデスクトップチェックボックス付きで表示するには、両方の値が true である必要があります。どちらかが false の場合、チェックボックスは表示されません。

- defaultChannelIsMinimized

このプロパティーは、標準ポータルデスクトップのユーザーの「モバイルデバイス」編集ページでデスクトップチェックボックスの付いた「表示するチャンネル」にチェックマークを付けるかどうかを指定します。このプロパティーのデフォルト値は、true です。したがって、チェックボックスにチェックマークは付かず、コンテナ内のすべてのチャンネルは最小化されたウィンドウ状態になります。

このプロパティーが false に設定されている場合、チェックボックスにチェックマークが付き、コンテナ内のすべてのチャンネルは通常のウィンドウ状態になります。

JSPRenderingContainerのプロパティ

JSPRenderingContainer の2つの拡張プロパティは、エラーページと編集ページの表示方法を指定します。これらのプロパティには次のものが含まれます。

- `errorChannel`

このプロパティは、JSPRenderingContainer およびレンダリングエンジンの使用時にデスクトップエラーが発生した場合に、エラーページをレンダリングするときに使用するチャンネルを示します。

- `editContainerName`

このプロパティは、特定のクライアントに対して編集可能としてマークされたチャンネルの編集ページをレンダリングするときに使用するチャンネルを示します。

モバイルアプリケーションの設定

次のアプリケーションは Mobile Access ソフトウェアの一部でないため、Portal Server Mobile Access ソフトウェアはデフォルトでは、これらのアプリケーションをモバイルポータルデスクトップから提供しません。

- アドレス帳
- カレンダー
- メール
- FAX

これらのアプリケーションは独立してインストールする必要があります。これらのアプリケーションはほかのマシンにもインストールでき、Portal Server ソフトウェアがインストールされているマシンと同じマシン上で実行する必要はありません。モバイルポータルデスクトップは、ユーザーインタフェースとして機能します。アプリケーションへのリンクが確立されると、Portal Server ソフトウェアの管理外で実行されます。ユーザーは、アプリケーションの使用を終了したら、モバイルポータルデスクトップに戻って他のアプリケーションまたはチャネルを使用できます。

サービス設定および Access Manager 機能の詳細については、『*Sun Java System Access Manager 7 2005Q4 管理ガイド*』を参照してください。通信チャネルの設定については、『*Sun Java System Portal Server 7.1 管理ガイド*』および『*Sun Java System Portal Server 7.1 Command Line Reference*』を参照してください。

サービス設定属性の使用

「サービス設定」レベル内では、デフォルトアプリケーション設定を表示および変更したり、ユーザー自身で編集できる設定を制御したりすることができます。アプリケーション設定は Portal Server 7.1 の CLI を使用して設定できます。設定変更の詳細については、『*Sun Java System Portal Server 7.1 Command Line Reference*』を参照してください。

Access Manager 属性の使用

「Access Manager」レベル内では、任意の組織またはユーザーのデフォルトアプリケーション設定を表示および変更することができます。

ここに保存される設定は、「サービス設定」レベルで保存されるダイナミック設定のコピーです。モバイルメールアプリケーションでは、組織の設定もここに保存されます。

▼ Portal Server コンソールからアイデンティティ管理ユーザー属性を編集する

- 1 **Portal Server 管理コンソールに管理者としてログインします。**
デフォルトでは、「共通タスク」タブが選択され、「共通管理タスク」ページが表示されます。
- 2 「ポータル」タブをクリックします。
「ポータル」ページが表示されます。利用可能なポータルが「ポータル」テーブルに表示されます。
- 3 管理するポータルの名前をクリックします。
「デスクトップのタスクと属性」ページが表示されます。このページには、Portal Server デスクトップのタスクおよび属性のうち編集可能なものが一覧表示されます。
- 4 「DN を選択」オプションから、「*username*(ユーザー)DN」を選択します。
「*username*(ユーザー)DN」オプションが利用できない場合、「DN を選択」リストにこの DN を追加する必要があります。次の手順に従って、「*username*(ユーザー)DN」を追加します。
 - a. 「DN の追加」ボタンをクリックします。
「DN リストに追加」ウィンドウが表示されます。
 - b. 「検索」オプションから「ユーザー」オプションを選択します。
 - c. 「ユーザー」オプションの後ろにあるテキストボックスにユーザー名を入力します。
 - d. 「検索」をクリックします。
ユーザー名が利用可能な場合、その名前が「検索結果」テーブルに表示されます。

- e. 追加するユーザー名の前にあるチェックボックスを選択して「追加」をクリックします。
「`username` (ユーザー) DN」が、「DN を選択」オプションに追加されます。
- 5 「作業」リストから「コンテナとチャネルを管理」をクリックします。
「コンテナとチャネルを管理: ポータル名」ページが表示されます。このページでは、利用可能な「表示タイプ」が左フレームに、選択した「表示タイプ」のプロパティが右フレームに表示されます。
- 6 「表示タイプ」オプションから、プロパティを編集する対象の表示タイプを選択します。
選択した表示タイプの「タスクおよびプロパティ」が右フレームに表示されます。
- 7 「プロパティ」テーブルで、編集するプロパティの前にあるチェックボックスを選択します。
- 8 「テーブルの設定」ボタンをクリックします。
「プロパティ」テーブルの最上部に「テーブルの設定」ボックスが表示されます。
- 9 「クライアントタイプ」および「ロケール」フィールドに、適切なクライアントタイプおよびロケール情報を入力します。
- 10 「了解」をクリックします。
- 11 「保存」をクリックします。
クライアントタイプに追加されます。

モバイルアプリケーションテンプレートについて

モバイルアプリケーションテンプレートは、アプリケーション設定の保存を管理するルールを設定するために存在します。テンプレートは、W3C (World Wide Web Consortium) から発表されている RFC 1738 の URL (Uniform Resource Locator) で表されます。

管理者は、テンプレート文字列を編集して、値を文字列のプロパティに割り当てたり、それらのプロパティに特定の使用ルールを適用したりすることができます。

テンプレート文字列は、単語 `default` で始まり、その後ろにパイプ記号 `|` が付いていなければなりません。この文字列で、テンプレート設定の名前とアプリケー

ションの動作を修正するために変更できる設定を指定します。Mobile Access のインストール時は、これらの設定はデフォルト値に設定されています。

次に示すのは、アドレス帳テンプレートの例です。この例では、テンプレート文字列は1つの長い文字列としてフィールドに表示されます。この例では、読みやすくするためにテンプレート文字列を数行に分けて表示しています。各アンパサンド(&)の前に改行が挿入されています。

例 5-1 例

```
default|undef:///?configName=MA-AB-APP
&default=sortBy
&default=sortOrder
&merge=sortBy
&merge=sortOrder
&sortBy=cn
&sortOrder=asc
```

この例のテンプレートの名前は、MA-AB-APP です。このテンプレートには、sortOrder と sortBy の2つの設定が含まれています。このテンプレートでは、それらの設定のデフォルト値と、それらの設定のユーザー定義を許可するルールが指定されています。

FAX の設定

FAX 機能を使用すると、ハンドヘルド機器のユーザーが文書を FAX 機器に送信できます。FAX 機器の場所は、印刷した形態で文書を利用するためのローカル FAX 機器を含め、任意に指定できます。このリリースでは、受信電子メールの添付ファイルとして利用できる1つ以上の文書をユーザーが FAX 送信できる1つの機能を扱います。

注 - 複数の電子メール添付ファイルを FAX 送信する機能は、FAX サービスのプロバイダに依存します。FAX サービスプロバイダで同じ機能を使用できないため、デフォルト実装 (Fax1.com) ではこの機能はサポートされません。

ユーザーは、FAX として印刷可能な、完全な電子メールメッセージをサービスプロバイダに送信できます。設定されているものと異なるサービスプロバイダを指定することもできます。その場合、ユーザーは次の情報を指定します。

- FAX 番号: ユーザーが電子メールを FAX として送信する宛先の番号。
FAX 番号には、FAX サービスプロバイダの DNS ドメイン名がサフィックスとして付く場合があります。この情報を指定しない場合、デフォルトの設定済みドメイン名が使用されます。

例: <fax#@domain>

- 差出人のアドレス: この電子メールアドレスは、ユーザーがサービスプロバイダで作成した FAX サービスアカウントと一致する必要があります。
- 件名: サービスプロバイダが要求を検証するために必要な資格情報が含まれます。

この機能には次の制限が適用されます。

- 文書のタイプはサービスプロバイダによって設定されます。
- ユーザーが FAX 送信できるのは完全な電子メールメッセージのみです。ユーザーはメッセージ内の添付ファイルを選択して FAX 送信することはできません。
- ユーザーが FAX 送信しようとしているメッセージの形式がプレーンテキスト以外 (HTML など) である場合、FAX の内容は予期したとおりに表示されません。HTML の場合、FAX の内容には HTML 要素を伴った HTML コードが含まれます。そのため、ユーザーは FAX メッセージがプレーンテキストタイプであることを確認する必要があります。これは Fax1 からの要件です。
- FAX サービスに送信される電子メールのフォーマット方法を規定する標準が存在しないため、すべてのサービスプロバイダは独自のフォーマットを定義しています。メールのフォーマットはプロバイダ間で異なります。すべてのファイルタイプがサポートされているとは限りません。各サービスプロバイダのサイトで、FAX 送信がサポートされている添付ファイルのタイプを確認できる場合があります。

FAX の設定方法については、『Sun Java System Portal Server 7.1 Command Line Reference』を参照してください。

音声アクセスの設定

この章では、音声アクセスに関する Portal Server Mobile Access ソフトウェアのサポートについて説明します。この章は次の節から構成されています。

- 61 ページの「音声機能の概要」
- 62 ページの「音声アクセスの設定」
- 65 ページの「Nuance Voice Web Server のインストール」
- 66 ページの「音声アクセス可能なユーザーアカウントの作成」
- 66 ページの「Portal Server ソフトウェアへのアクセス」

音声機能の概要

Mobile Access ソフトウェアの音声アクセスのサポートにより、ユーザーは、電話または SIP (Session Initiation Protocol) を有効にして VoIP (Voice over IP) をサポートするソフトウェアを使って、音声対応コンテンツにアクセスできます。

このソフトウェアには、次の音声対応機能があります。

- 音声認証—この機能を使用すると、ユーザーはアカウント番号と PIN を音声で伝えて(または入力して)、ポータルサイトに自分自身を識別させることができます。この認証プロセスにより、ユーザーは標準ポータルデスクトップまたはモバイルポータルデスクトップ上でそのユーザーが利用可能なコンテンツにアクセスできます。
- チャネル管理—この機能を使用すると、ユーザーは音声対応アプリケーションのリストから選択できます。ユーザーは音声対応アプリケーションを追加したり、音声ポータルデスクトップから削除したりすることができます。
- ノート—ユーザーは、すべての Portal Server ユーザーに発行されているメッセージのリストを音声で聞くことができます。
- 個人用ノート—ユーザーは自分の Portal Server アカウントに関連付けられている個人用メッセージを音声で聞くことができます。

- メールボイスレットユーザーは、電子メールメッセージの数、既読/未読メッセージの数など、電子メールメッセージの概要を音声で聞くことができます。ユーザーはこの機能により、事前設定済みの電子メールサーバーから電子メールを取得することができます。ユーザーはメッセージのヘッダーや本文など、特定の電子メールメッセージの内容を音声で聞いたり、特定のメッセージを削除したりすることができます。

音声アクセスの設定

Mobile Access ソフトウェアには、音声アクセスのサポートが組み込まれています。音声コンポーネントは、VoiceXML 2.0 に準拠した音声ブラウザが付属する Nuance Voice Platform 上で保証されています。

音声機能にアクセスするには、音声認識、テキスト読み上げ、および VoiceXML ブラウザに対応するように音声サーバーを設定する必要があります。

この節では、次の設定オプションについて説明します。

- [62 ページの「音声サービスプロバイダの使用」](#)
- [63 ページの「テレフォニーシステムの使用」](#)
- [63 ページの「SIP \(Session Initiation Protocol\) の使用」](#)
- [64 ページの「ネイティブオーディオの使用」](#)

音声サービスプロバイダの使用

Portal Server ソフトウェアにインターネットからアクセスできる場合は、音声アプリケーションサービスプロバイダ、つまり音声ホスティングサービスを使用するのがもっとも簡単です。サービスプロバイダによって、音声サーバーが実行され、Portal Server ソフトウェアを呼び出すための電話番号が提供されます。

音声サービスプロバイダアクセスを有効にするには、次の手順を実行します。

▼ 音声サービスプロバイダアクセスを有効にする

- 1 **Sun Java System Portal Server Mobile Access** ソフトウェアをインストールし、インターネットからシステムにアクセスできることを確認します。**Portal Server** ソフトウェアの **Web** インタフェースに割り当てられたポートの **HTTP** トラフィックに対して、ファイアウォールを開かなければならない場合があります。
- 2 **Nuance Voice Platform** を使用する音声サービスプロバイダを確認します。プラットフォームでは、コア **Nuance** 認識プラットフォームだけでなく、**Nuance Voice Web Server** の **VoiceXML** ブラウザを使用する必要があります。**Nuance Voice Platform** をサポートする音声サービスプロバイダの完全なリストについては、**Nuance** にお問い合わせください。

- 3 音声サービスプロバイダでアカウントを作成し、**Portal Server** ソフトウェアの **HTTP URL** を指定します。サービスプロバイダは、作成するサービスごとに電話番号と(可能な場合は) **PIN** を割り当てます。ほとんどの音声サービスプロバイダでは、評価アカウントの作成が許可されています。

テレフォニーシステムの使用

電話を使用して Portal Server ソフトウェアにアクセスする場合は、使用する電話網(または交換機)および音声サーバーハードウェアプラットフォームと互換性のある DSP (Digital Signal Processing) テレフォニーカードを用意する必要があります。NMS Communications では、Solaris™ オペレーティングシステム (SPARC® Platform Edition) および Windows Intel プラットフォームと互換性のあるさまざまな DSP ソリューションを提供しています。

テレフォニーシステムアクセスを使用するには、次の手順を実行します。

▼ テレフォニーシステムアクセスを使用する

- 1 製造元が推奨する **DSP** ハードウェア、デバイスドライバ、およびソフトウェアをインストールします。**NMS Communications** の **DSP** カードを使用する場合は、**NMS Natural Access 2002-1** ソフトウェアも必要になります。
- 2 テストユーティリティを使用して **DSP** カードの設定をテストします。通常、テストユーティリティは **DSP** ソフトウェアに付属しています。
- 3 電話交換機のポートまたはポートの範囲を指定し、**DSP** カードと互換性のあるプロトコルを使用するようにポートを設定します。
- 4 上記の手順3で設定したポートに電話番号を割り当てます。
- 5 **DSP** カードを交換機に接続し、上記の手順4で指定した電話番号をダイヤルして、接続をテストします。**DSP** ハードウェアに付属のテストプログラムを使用して、正しく動作することを確認します。
- 6 **Nuance** コンポーネントのインストール方法については、[65 ページの「Nuance Voice Web Server のインストール」](#)の節を参照してください。

SIP (Session Initiation Protocol) の使用

SIP (Session Initiation Protocol) を使用すると、ユーザーはマイクとスピーカーが装備されたコンピュータから VoIP (Voice over IP) を使用してポータルサイトにアクセスできます。

この機能を有効にするには、SIP ソフトウェアベース電話をインストールして音声サーバーと通信する必要があります。Pingtel が提供している SIP 対応のソフトウェアベース電話アプリケーション、InstantExpressa は、この目的のために使用できます。さまざまなパブリックドメイン SIP ベース電話をインターネット上で利用できます。

SIP アクセス用にシステムを設定するには、次の手順を実行します。

▼ SIP アクセス用にシステムを設定する

- 1 **Portal Server** ソフトウェアとの通信に使用するコンピュータを特定します。そのコンピュータで SIP プロトコルを使用して音声サーバーと通信できることを確認します。SIP ポートを開くようにファイアウォールを設定しなければならない場合もあります。
- 2 SIP ベース電話をこのコンピュータにインストールし、SIP サービスを利用できる場合は接続してテストします。多くの SIP ベース電話には、テストの目的でインストールできる単純なテストサーバーが付属しています。
- 3 **Nuance** コンポーネントのインストール方法については、58 ページの「**Nuance Voice Web Server** のインストール」の節を参照してください。

ネイティブオーディオの使用

ネイティブオーディオとは、音声サーバーソフトウェアが実行されているシステムから Portal Server ソフトウェアに直接アクセスすることを指します。したがって、音声サーバーにはオーディオカードとマイクが必要です。ユーザーはローカルでのみネイティブオーディオを操作できます。リモートからアクセスすることはできません。

Microsoft Windows オペレーティングシステムが実行されているシステムの場合は、SoundBlaster との互換性のあるサウンドカードが必要です。ネイティブオーディオアクセスを使用するには、次の手順を実行します。

▼ ネイティブオーディオアクセスを使用する

- 1 **Nuance** コンポーネントのインストール方法については、65 ページの「**Nuance Voice Web Server** のインストール」の節を参照してください。
- 2 ネイティブオーディオを使用するために **Nuance Voice Web Server** を設定します。詳細については、**Nuance Voice Web Server** のマニュアルを参照してください。

Nuance Voice Web Server のインストール

注- 音声サービスプロバイダを使用している場合は、この節を飛ばしてもかまいません。

Nuance Voice Web Server のインストールには、適切なハードウェアプラットフォームの選択、音声認識ソフトウェアのインストールと設定、および電話または IP ネットワークインタフェースによる接続の提供が必要です。

サーバーをインストールするには、次の手順を実行します。

▼ サーバーをインストールする

- 1 音声サーバーとして使用する専用システムを選択します。ハードウェアの要件については、**Nuance Voice Web Server 2.0** のリリースノートを参照してください。
- 2 **Nuance Voice Platform** ソフトウェアを用意します。ハードウェアの要件については、**Nuance** のマニュアルを参照してください。
- 3 **Nuance** ソフトウェアと追加ソフトウェアを音声サーバーにインストールして設定します。**Nuance** のインストールに関する指示に従います。ソフトウェアコンポーネントおよびサービスパックをインストールする順番は重要です。
- 4 ネイティブオーディオ、SIP、またはテレフォニーアクセス用に **Nuance Voice Web Server** を設定します。
- 5 **Nuance** サービスを開始し、次に、**Nuance Voice Web Server** を起動します。
- 6 マイク、電話、または SIP ソフトウェアを使用して音声サーバーにアクセスし、**Nuance** 音声デモアプリケーションにアクセスできることを確認します。この時点で、**Nuance** ソフトウェアを調整して音声認識のパフォーマンスを改善しなければならない場合があります。手順については、**Nuance** のマニュアルを参照してください。

インストールが完了したら、Portal Server ソフトウェアにアクセスするように Nuance ソフトウェアを設定します。

Nuance ソフトウェアを設定するには、次の手順を実行します。

- 7 **Nuance Voice Web Server** を実行している場合は、シャットダウンします。

- 8 **Nuance Voice Web Server** のインストールから `browser.conf` ファイルを検索します。**Microsoft Windows** オペレーティングシステムの場合、このファイルは次のディレクトリにあります。

`C:\Nuance\VWS\conf\browser.conf`

- 9 テキストエディタを使用してこのファイルを開き、次のエントリを見つけます。

`browser.initialPage=%CONTENT%/%LOCALE/initial/dialogs/main.vxml`

- 10 このエントリを修正して、**Portal Server** ソフトウェアインストールの URL を含めます。

例:

`browser.initialPage=http://portal.example.com:58080/amserver/UI/Login`

ここで、`portal.example.com` は、**Portal Server** ソフトウェアがインストールされているシステムのホスト名です。`58080` は、ポータル Web インタフェースに割り当てられているポートです。

- 11 `browser.conf` ファイルを保存します。
- 12 **Nuance Voice Web Server** を再起動します。**Voice Web Server** は初期化され、着呼を待機します。

音声アクセス可能なユーザーアカウントの作成

音声機能を使用するには、**Portal Server** ソフトウェアにユーザーアカウントを作成する必要があります。音声アクセスの場合、音声アクセスを可能にするアカウントに数字のユーザー ID とパスワードを割り当てる必要があります。

10 桁のアカウント番号を作成します。アカウントパスワードは、PIN として使用されるため、数字のパスワードをアカウントに割り当てます。PIN は 4 桁の数字にする必要があります。

ユーザーアカウントの作成については、『*Sun Java™ System Portal Server 7.1 管理ガイド*』を参照してください。

Portal Server ソフトウェアへのアクセス

この節では、次のような **Portal Server** ソフトウェアへのアクセス方法について説明します。

- [67 ページの「音声サービスプロバイダの使用」](#)
- [67 ページの「電話の使用」](#)
- [68 ページの「SIP \(Session Initiation Protocol\) の使用」](#)

- 68 ページの「ネイティブオーディオの使用」

音声サービスプロバイダの使用

サービスプロバイダによってアカウントに割り当てられた番号を呼び出します。

ソフトウェアが正しく設定されている場合は、次の会話が聞こえます。Portal Server アカウントに割り当てられたアカウント番号と PIN を音声で伝えます (または入力する)。

システム:

This is Voice Portal, by Sun.

Please say or key in your account number.

ユーザー:

415 555 5940

システム:

Got it.

And what's your PIN?

ユーザー:

1234

システム:

Hello, John. You're signed in.

Here are the portal channels you can choose from: Personal Notes, Notes.

You can also say add a channel.

Which would you like?

電話の使用

電話で Portal Server ソフトウェアにアクセスするには、通信サービスプロバイダによって音声サーバーに割り当てられた番号をダイヤルします。

SIP (Session Initiation Protocol) の使用

SIP ソフトウェア電話を使用する場合は、Portal Server ソフトウェアではなく Voice Server ソフトウェアの SIP アドレスを指定する必要があります。次の URL フォーマットを使用します。

```
sip://vws@voiceserver.example.com:5060
```

ここで、vws は、voiceserver.example.com というサーバーの「Nuance Voice Web Server サービスにアクセスする」という意味です。5060 は、Nuance Voice Web Server が SIP 接続要求を待機するポートです。

ネイティブオーディオの使用

ネイティブオーディオを使用するように Nuance Voice Web Server を設定している場合は、Nuance vws コマンドを使用してサーバーを起動します。サーバーは、起動するとすぐに Portal Server ソフトウェアにアクセスします。

索引

C

CC/PP, 27
CC/PP (Composite Capability and Preferences Profile), 27
cHTML, 31
clientType プロパティ, 27

D

defaultChannelIsMaximizable プロパティ, 52
defaultChannelIsMinimizable プロパティ, 52
defaultChannelIsMinimized プロパティ, 52
desktopContainer プロパティ, 28, 51

E

editContainerName プロパティ, 53
errorChannel プロパティ, 53

H

Handspring Treo 180, 20
HDML, 30

I

iHTML, 31

J

J-Sky 機器サポート, 30
JHTML, 30

L

Linux、デフォルトのベースディレクトリ, 10

N

Nokia 6310i, 20, 27
NoPassword 認証モジュール
 概要, 45-46
 有効化, 45-46
Nuance Voice Web Server, 66

P

parentId プロパティ, 27

S

selectedClients プロパティ, 51
SIP, 63-64
SIP (Session Initiation Protocol), 63-64
Solaris
 サポート, 14
 パッチ, 14

T

Treo 180, 20

U

UAProf, 27

userAgent プロパティ, 27

V

VoiceXML

アプリケーション, 21

定義, 30

ブラウザ, 21

VoIP, 63

VoIP (Voice over IP), 63

W

WML, 30

X

XHTML, 30

あ

アイデンティティ管理, ユーザー属性の編集, 56-57

アスタリスク、クライアントタイプ名, 31

新しいデバイスの作成

スタイルの継承, 36-38

プロパティの継承, 38-40

新しいデバイスのセットアップ

スタイルの継承, 36-38

プロパティの継承, 38-40

アドレス帳アプリケーション

概要, 24

設定, 55

アプリケーション設定

「アイデンティティ管理」レベル, 56

「サービス設定」レベル, 55

テンプレート, 57

アプリケーション、モバイルタイプ, 55

アプリケーション、モバイルのタイプ, 24

お

応答バッファ, 23

音声

Nuance Voice Web Server, 66

アクセス, 21, 62-64

音声サービスプロバイダ, 62-63

音声サービスプロバイダの使用, 62-63

認証, 61

ネイティブオーディオ, 64

ブラウザ, 62

ユーザーアカウントの作成, 66

音声アクセス、設定

SIP (Session Initiation Protocol), 63-64

音声サービスプロバイダ, 62-63

テレフォニーシステム, 63

ネイティブオーディオ, 64

音声サービスプロバイダ, 62-63

音声ポータルデスクトップ

概要, 19

ユーザー管理, 61

か

外部クライアントタイプデータ, 29

カレンダーアプリケーション

概要, 24

設定, 55

管理コンソール

Mobile Access ソフトウェアの機能, 24

音声ポータルデスクトップ管理, 25

概要, 24

モバイルポータルデスクトップ管理, 25

ログイン, 25

く

クライアントエディタ, 32
 クライアントタイプデータ
 アスタリスク, 31
 外部ライブラリ, 29
 管理, 34-43
 検索, 31
 条件プロパティ, 28
 スタイルプロパティ, 31
 データベース, 29
 デバイス情報, 31
 内部ライブラリ, 29
 必要なプロパティ, 27
 フィルタオプション, 31
 クライアントタイプデータの管理, 34-43
 クライアントタイプの識別, 20, 41-43
 クライアントタイプの変更, 34-36
 クライアントタイプの編集の取り消し, 36
 クライアントディテクション, 23, 27-29
 クライアントデータベース, 29
 クライアントデータベースの更新, 29
 クライアントプロファイル, 20
 クライアントマネージャー
 アスタリスク, 31
 概要, 30
 起動, 32
 クライアントエディタ, 32
 クライアントタイプデータの管理, 34
 クライアントタイプの編集, 34-36
 「削除」リンク, 38, 40, 41
 スタイルの継承, 36-38
 デバイスの削除, 40-41
 「デフォルト」リンク, 36
 「複製」リンク, 39
 プロパティの継承, 38-40
 「編集」リンク, 32, 33, 35, 37, 38, 41

こ

コンテンツタイプ, 23
 コンテンツのバッファリング, 23

さ

「削除」リンク, 38, 40, 41
 サポート
 Solaris, 14

し

「ジャンプ」オプション, 35, 39
 条件プロパティ
 概要, 51-52
 クライアントタイプデータの保存, 28

す

スタイルの継承, 34, 36-38
 スタイルプロパティ
 継承, 34, 36-38
 使用, 31
 表示, 32-33

ち

チャネル
 拡張プロパティ, 53
 条件プロパティ, 51-52
 状態プロパティ, 52
 ネイティブ, 23
 レンダリング, 23

て

ディスパッチャ、ワイヤレスデスクトップ, 19
 データベース、クライアント, 29
 デバイス情報, 31
 デバイスデータベース, 29
 デバイスの削除, 40-41
 デフォルトアプリケーション, 55
 デフォルトのクライアントタイプの復元, 36
 「デフォルト」リンク、クライアントタイプの編集, 36
 テレフォニーシステム, 63

テンプレート、モバイルアプリケーション、 57

と

匿名認証, 46-47

な

内部クライアントタイプデータ, 29

に

認証

NoPassword, 45-46

音声, 61

匿名, 46-47

ね

ネイティブオーディオ, 64

ネイティブチャンネル, 23

は

パッチ、クライアントデータベース, 29

ひ

標準ポータルデスクトップ, 概要, 19

ふ

フィルタオプション, 31

「複製」リンク, 39

ブラウザ

HTML, 17

音声, 62

サポート対象, 20, 30

プロパティ

clientType, 27

defaultChannelIsMaximizable, 52

defaultChannelIsMinimizable, 52

defaultChannelIsMinimized, 52

desktopContainer, 51

editContainerName, 53

errorChannel, 53

parentId, 27

selectedClients, 51

userAgent, 27

拡張, 53

クライアントエディタのカテゴリ, 32

条件, 51-52

スタイル, 31

チャンネルとコンテナ, 50-51

チャンネルの状態, 52

デバイスの継承, 38-40

ワイヤレスデスクトップディスパッチャ, 51

プロパティの継承, 34

手順, 38-40

へ

ページング, 23

変換マークアップ言語, 22

編集, クライアントタイプ, 34-36

「編集」リンク

新しいデバイスの作成, 37, 38

クライアントタイプの編集, 35

「クライアントタイプ」ラベル, 32, 33

デバイスの削除, 41

ほ

ポータルデスクトップ、音声

概要, 19

ユーザー管理, 61

ポータルデスクトップ、標準, 概要, 19

ポータルデスクトップ、モバイル

概要, 19

デフォルトアプリケーション, 55

デフォルトチャンネル, 20

保証済みデバイス

Handspring Treo 180, 20

Nokia 6310i, 20

ま

マークアップ言語

cHTML, 31

HDML, 30

iHTML, 31

JHTML, 30

VoiceXML, 30

WML, 30

XHTML, 30

概要, 20

レンダリング, 22

マニュアル, 概要, 12-13

レンダリング (続き)

概要, 22

クライアントディテクション, 23

レンダリングエンジン, 23

レンダリングフィルタ, 23

レンダリングエンジン, 23

レンダリングチャンネル, 23

レンダリングフィルタ, 23

わ

ワイヤレスデスクトップディスパッチャ

概要, 19, 49-50

プロパティ, 51

め

メールアプリケーション

概要, 24

設定, 55

も

モバイルアプリケーション

アイデンティティ管理属性の編集, 56-57

アドレス帳, 24, 55

概要, 55

カレンダー, 24, 55

テンプレート, 57

テンプレート文字列の編集, 57

メール, 24, 55

モバイルポータルデスクトップ, 概要, 19

れ

レンダリング

AML, 23

応答バッファ, 23

